

書きの学習に関するアセスメントテストの作成を見据えた予備的研究

—— 岡田論文へのコメント ——

奥村 智人

障害者差別解消法が2016年4月1日から施行され、日本においても合理的配慮などの考え方を取り入れた取り組みが求められている現状がある。岡田論文でも述べられているが、そのような中で、新学習指導要領が公示され、個に応じた指導を一層重視するとの方針が示されている。個に応じた指導を行うためには、個の特性を捉えることが当然必要となる。

岡田論文では、教師が児童の学習のつまずきを網羅的に捉えられるようなアセスメントテストを作成することを目標に、「書く」ことに焦点を当てたアセスメントテストを試行的に作成し、検証している。既存の書きのアセスメントには、ひらがな単語聴写テスト(村井, 2010)、ウラウスURAWSS(河野・平林・中邑, 2013)、改訂版標準読み書きスクリーニング検査STRAW-R(宇野・春原・金子 他, 2017)、などがある。これらの検査は、文字・単語レベルの聴写や文章の視写速度など書きの基礎的技能を測定しようとしているが、岡田論文の検査では、書字の中でも文・文章レベルの産出に必要なより高次の書字技能も含めた検討を行っていることが興味深い。

論文では、通常学級に在籍する一般の児童とリソースルームに在籍する書きに困難さがある児童を比較している。今回作成されたアセスメントによると、文・文章レベルの問題だけにつまずいている児童も存在した。このことから、通常学級に在籍する児童に対する書きの学習についてのア

セスメントは、文字や単語の書きの能力を測る課題で構成されるものだけでなく、文、文章産出の能力を測定する課題も必要であると述べられている。文・文章レベルのアセスメントの重要性が指摘されている先行研究は少なく、岡田論文の特徴の一つと言える。

論文中でも述べられている通り、厳選された課題により有効なアセスメントの完成に近づくと考えられる。今後検討が進み、教育現場で実施可能な形で提供されることを期待する。

【文献】

河野俊寛, 平林ルミ, 中邑賢龍 (2013): 小学生の読み書きの理解 URWSS. こころリソースブック出版会.

村井敏宏 (2010): 通常の学級でやさしい学び支援2 読み書きが苦手な子どもへの〈つまずき〉支援ワーク. 明治図書.

宇野 彰, 春原則子, 金子真人 他 (2017): 改訂版標準読み書きスクリーニング検査-正確性と流暢性の評価-. インテルナ出版.